

豊かな文化の薫る生活で 心と人生に余裕と潤いを

「趣味を楽しむには、心の余裕が必要。最近の若い人は仕事
が忙しいだろうけど、その中で
一呼吸置くことでほんの少し心
に余裕ができ、自分の生き方に
潤いができる」と語るのは、今
年度から甲佐町文化協会の会長

に就任した村上邦生さん。
「例えば旅行に行くときも、
写真や絵画をしている人は、自
分の作品のテーマを選ぶ視点か
あるから、自然と行き先も違っ
てくるでしょう」と、趣味を持
つことで視野や行動範囲などが

多彩に広がる楽しさを説く。
同協会は、昭和51年に本町の
芸術文化向上のために設立され、
昨年度時点で絵画や工芸など57
団体464人が加入している。
「活動が目に見える機会を
増やすことで、活動する人たち
の意欲もわく。同時に、活動に
参加したいと思う人が増えてく
れば」と、これまで以上に同
協会の活動を広げるために、町
生涯学習センター・ギャラリー



村上 邦生さん
Murakami Kunio

〔上豊内区〕

むらかみ・くにお / 甲佐町文化協会会長。本町の芸術文化活動の向上に尽力し、今年度から現職に就任。陶芸や窯元探訪など多彩な趣味を楽しむ。

モールでの会員の作品の展示会や各種イベントなどで活動内容の発表の機会を充実させることに力を入れている。

自身も多趣味な村上さん。「窯元探訪や史跡巡りなどで、あちこち行くのは楽しい」と語る。陶芸については「いろいろな造形ができるのが、一番の魅力。自分が思い描いていた通りに焼き上がったときは、とてもうれしい」とにっこり。

会長として最優先で取り組みたいことは、「広報」と村上さん。平成22年に開催した落語上演会で、「大物の落語家を呼んだが、人が入らなかつた」経験があるためだ。「せっかくイベントを開催しても、誰も知らないのでは意味がない。広報をして、特に若い人たちに来てもらわない」と、高齢化による活動の衰退に危機感を抱く。

現在は、同協会のブログの立ち上げを検討中。「ネットで活動内容を紹介するなど、幅広い年代の人たちに関心を持ってもらいたい」と話す。また今後は、「いろいろな人の要望を聞いて、活動内容をさらに充実させた」と笑顔で語った。

広報 こうき

2012年（平成24年）7月号
通巻516号